

平成 28 年度第 1 回  
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 平成 28 年 6 月 7 日（火曜日）  
午後 3 時 00 分～午後 4 時 30 分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

## 1 開式（倉部教育長）

- ・会議の公開について
- ・委員会の設置について
- ・各委員より自己紹介

## 2 いじめ防止対策についての取組（報告）（羽場センター長）

### (1) いじめアンケートによる認知率の推移について ※昨年度等の資料と比較して説明

- ・同じ年度においては、11月の認知率は6月よりも下がり、次年度の6月にまた上がる傾向がある。11月に下がる要因は、学級集団の成長が考えられる。
- ・どの年度においても中学校より小学校の認知率が高い。小学校の中学年では、いじめの件数が多くなっているが、友人関係のつながりが強くなり、同時にそれに伴うトラブルも多くなることで、嫌な思いをする児童が増える事が原因と考える。それに対し、小学校高学年から中学生になるにつれて、問題解決の力も高くなるため、低くなると思う。
- ・スマートフォンの所持率は、これからも増加していくことが見込まれる。これからは、「所持しない」ということではなく、「どのように使うか」ということに焦点を切り替えて指導していかねばいけない。
- ・使い方の指導としては、現在も小中学校で情報モラル教育を実施している。今後とも、継続して実施していく。

### (2) いじめ防止に向けての「課題」及び「今年度の取組」について

ア. 平成27年度に開催された「いじめ防止対策委員会」より

#### <実態：気になること>

- ・「嫌なことを言われる」「無視」「仲間はずれ」が一定の割合で起きている。
- ・小学校では「暴力」、中学校では「手紙やメールで嫌なことを書かれた」の割合が高い。

#### <実態：良かったこと>

- ・認知後の迅速な対応により、いじめ事案のほとんどが解消されている。
- ・担任だけでなく、心の相談員や特別支援学級の教員が家庭訪問を行っており、担任が一人で対応するのではなく、複数の教員で対応することができている。

#### <課題>

##### ◆対応手段として◆

- ・「いじめの傍観者」や「いじめの加害者」については依然として存在している。これからも、特に「いじめの傍観者」を減らすという取組を続けていかなければいけない。
- ・小中一貫教育のAbi-道徳などでも、心の教育を行っている。中学年の段階でいじめが増加傾向にあるということであれば、その段階で、「いじめの防止」という内容の道徳的な取組を重点的に行うことも一案ではないか。

#### ◆検討事項◆

- ・いじめは解消されたが、現在も相談室登校などが続いている子どもがいる。子ども達のその後の心のケアや支援などについても、この委員会のテーマにする必要がある。

#### イ. 青少年ネット被害防止対策事業について

- ・我孫子市においては、問題のある書き込みが平成 26 年度および 27 年度に 1 件ずつ発見されたが、その後の対応により、解決済み。

#### ウ. いじめ防止対策に向けての取組み

- ・いじめについてのアンケートの実施（年 2 回 学校独自も）
- ・Q-U 検査の実施 ・道徳教育の充実 ・情報モラル教育の実施 ・教職員研修（6 研修）
- ・本年度より教育委員会による巡回指導を計画的に行う。

#### エ. 巡回指導についての報告（佐藤指導主事）

- ・4 月末から 5 月末にかけて、内 19 校全校を回ってきた。
- ・うつむき加減の子どもや反応の薄い子、集団からちょっと距離感がある子など、気になった子どもについて状況確認し、今後、意識して見守っていただけるようお願いした。
- ・全体的には、落ち着いた学習態度で明るい表情で学習していた。
- ・今後は児童生徒が動いている場面（体育など技能教科・休み時間・配膳時・帰りの会・放課後・部活動など）での巡回も考えていきたい。

### 3 意見交換

- ・家でルールを決めて携帯電話（スマートフォン）を持たせているが、学校や市としての「ルール作り」が重要ではないか。
  - ☞たとえ学校で厳しいルールを作っても家庭での対応ができていないと効果は薄い。まずは家庭での状況を踏まえ、ルールを考え、それを各学校の PTA、我 P 連でまとめ、教育委員会と共に作っていくのが良いのではないか。
- ・いじめのとらえ方はそれぞれによって差があるので、一人の判断ではなく、学校全体で把握し、全体で対応していくことで大切である。
- ・「いじめ防止対策委員会」が開催されていることがほとんど知られていないので、広報活動をして欲しい。
- ・巡回指導の中で気になった子について、学校任せではなく教育委員会と連携をとっていく必要があるのではないか。
- ・アンケートを通しての親の声はどうでしょうか？
- ・中学校では部活動の中でのいじめが心配される。土曜・日曜などは長い活動になるので、平

日の部活動だけでなく、土日の部活動巡回もできればいいのではないか。

☞アンケート結果の活用については、保護者会等で大まかな報告をしていると思うが、有効活用という点ではまだまだである。親の意識の把握、考え方の把握等今後の課題とし、連携を取り合っていきたい。土日の部活動巡回については難しい面もある。

- ・起きてしまった事案への対応についてどうしていくのか。やってしまった子どもの心理を分析して、いじめをやらないうで済むように先手をとっていきような手立てがあればいいと思う。

☞いじめをやる側、やられる側の心理は一樣ではないだろう。やる側の心理をどこまで知ることができるか…それがしっかり分析できれば予防につながっていくと思う。また、スクールソーシャルワーカーなどがもっと学校現場に入っていくなど、教員とは違った視点を持った専門家も必要だと考える。現実的にはどういう形で組織化できるかが難しいが、この場でこのような話題が出たのは良いことだと思う。

- ・「どのような行為がいじめなのか？」という線引きが難しいが、相手の立場での心理を共有し合うことが大切ではないか。心を開いて話し合える場の設定が必要である。

☞線引きは難しい。より多くの人に関わり、話し合い、指導することが大切。それでも繰り返されれば「いじめ」として対応する。いじめには特効薬はない。

- ・小学校 3 年前後は活動が活発になり、人間関係を作っていく中でトラブルが増えていく。しかし、それは子どもの成長には大切なことである。

☞「乗り越える階段」はあった方がいい。また、いじめをやる子の心理や、やられている子どもの保護者の心理等も大切。親から見れば「いじめ」ととらえ、ずっと引きずる事もある。やはり、PTA 組織との連携が大切だと考える。

#### **4 連絡（羽場）**

- ・今後の実施予定について

第 2 回 平成 28 年 10 月 18 日（火） 午後 3 時 00 分（我孫子市教育委員会大会議室）

第 3 回 平成 29 年 2 月 16 日（木） 午後 3 時 00 分（我孫子市教育委員会大会議室）

#### **5 閉会（倉部教育長）**